

# Moje West Chronicle

～京都ミュージックシーンの系譜～

<http://www.m21.or.jp/clubfame/mojoproject/>

## phase 42 UrBANGUILD ②

フッキングはもう必要ない。  
ほな辞めるといふことか。

画を描いてきた。大工をやつてきた。妻子を連れてヨーロッパも巡つた。少し距離を置いて音楽とも付き合つてきた。そんな福西次郎氏(以下、ジロー氏)は98年からの8年間、昨年までアンデパンダンの「店長兼デザイナー兼フッキングマネージャー」という立場を貫いた。その間にアルバイトのスタッフたちも、大工仕事もこなせるようになった。

その店と袂を分かつたのは、「フッキングはもう必要ない」という方針が変わつたからである。「観光地、ではないけども、ライブをやることで入ったり入らなかつたりというのを今さらしなくてもそこには人は入ると。そうするとオレのやることであらへんかな。ほな辞めるといふことか、と。選択肢はふたつ。自らの考えに逆らつて仕事を続けるか、辞めるかである。恐らく、ジロー氏の性分はこの先も変わらないだろう。後者を選んだ。

と同時に、レギュラースタッフ13人も辞めてしまった。「ライブをやめたらただの古ビルの地下やん」と思ひよつたんかも知れぬ(笑)。じゃあオレはどうするべきか。みんなバラバラというよりも何かしようか。

それが同店誕生の経緯である。ジロー氏が今まで見てきた京都のミュージックシーン、そのシーンに住む人々との関わり、そして「アンデパンダン」という店にあったシーン、確実にあるそれらをキツチリと残し、つなげようと考えた。もし、ジロー氏ひとりになっていたらどうなつただろうと想像すると、少しソツとする。

**アナタの前にはこんな音がある。  
それが少しでも何かを与えるなら…**

オープン当初の「アンデパンダン」では、親た後に良いと思つたらいくばくかの料金を置いていく、カンパ制のライブをやつていた。本来、そういうスタンスで音楽と付き合つて、それに付随して出合いがあればいいという感じだった。「偶然、今日この店を訪れたアナタの前にはこんな音がある。この音が、ほんの少しでもアナタの人生に良い何かを与えることができたなら、いくらかのお金を置いていって下さい」。飲食店という商業ベースがどうかより、よりプリミティブに「音」と接する。その証拠に、ジロー氏は後期の「アンデパンダン」を「どんだんライヴハウス化していった」と表現する。「それはそれで良いことなんやけど、ライヴハウスにしては見つらいし、音響的にも良いわけではないし、ガツリしたことをやるうとすればするほど不具合も出てくるしね。それでもアリなやり方はたくさんあったけど、ただあそこであることは全部やつたかな。という気持ちもあつた。

全部自らがつくつたと言つても良い店のこと、愛着もあつたし、辞めることに迷いがなかつたと言えはワソになるが、「それが居酒屋でも何でも、店をつくつて一番悲しいのは、あれこれ考へて一所懸命つくつた店を、アカン感じて使われてるのを見たときやねんね。オレのものじゃないから仕方ないねんけど、特にライブをやつてそれを感した」といふ。それは写真を撮る人も、ライブをする人も、全て同じである。自分が生み出したものが自分だけのものでないならば、さらに人と関わろうとすれば、どこかに歪みは出る。問題は、そのバランスを取るために、どこに支点を置くかである。

「自分でやつたら、少なくともアカン使い方はしないわけやん?自分がつくつた空間を自分で使つて、もつと空気を足していく。やっぱりハココで、内装があつてコンセプトがあつて、お客さんがいて、他の表現があつて初めて成り立つし、それでできていく空気が溜まつていって独特の雰囲気が出てくる。トータルコーディネートしてナンボと思つてやつてきたからね。」

**「金はないけど、身体なら貸す」  
解体から完成まで、およそ1カ月!**

'05年末に店を辞めることが決まりながらも、'06年の3月まではフッキングが固まっていたため、たちまち店から去ることはできなかったが、とにかく「次」を考え、動き出した。「3月までのフッキングはまあ消化試合やけど(笑)、それより自分でやる先を考えなアカンと思つた。とは言つても貯金が2万くらいしかなかったからね。これじゃ何にもできひんね」と(笑)。金策に駆け回りながらも、小規模は全く考えなかつた。「入るときに入らないときの差は仕方がない。そういう差を埋めるくらいガバツと入れるキャバ、稼げるときにガツと稼げるポテンシャルがないと、絶対無理だから。いっぱい入つて30人、入らないときは10人では無理。だから「入れば200人、くらしいのサイズは絶対に必要やつた。」

かといつて、街のどこにそんなスペースが余っているか、あちこち探し回つたが、シツクリくる物件にはなかなか行き当たらず、そしてこの木屋町の雑居ビルに出会う。

初見では「木屋町かあ」と思つたそうだが、だが同時に、改めて目を付けていた場所でもあつた。「アンデパンダンをやりだしたころなんて、御幸町には何にもなかつたけど、それが今はあんななつて(人気店が増えて)、家賃も高くなつた。今さら御幸町と烏丸の間でちよつとしたトレンドみたいになるのもイヤやつたし、そんな「お洒落、みたいなんじゃないやなくてかまへん」と、元々木屋町は川もあつてええとこやし、別に上品な街でやるっていうニュアンスでもないし、得てしてそういうものなのだろう。こういう人が目を付けたことで、逆に木屋町の容容が信憑性を帯びる。

ただ、紹介されたのは広いスペースになる「可能性はある」



というものだった。現在同店はビルの3Fの1フロア全てを占有しているが、元々は10軒の店が並んでいた。というより「10個に仕切られていた」といった方が正しい。「壁抜いても良いんですか?」と言つたら「お金がかかりますよ?」と、「そんなもん、自分でやります」やん(笑)。ついでにきてくれたスタッフ全員に加えて、「金はないけど、身体なら貸す」という友達やミュージシャンも集まつてきた。アンデパンダンの最終日の翌日には解体を始めて、平均20名のボランティアが約1カ月でどうにか完成にこぎ着けた。

**表現はもつと多様化していく。  
だから芝居も、ダンスもしてる。**

システムとしては、出演者からは一切料金は取らない。さらにチケット1枚につき、いくらかのチャージバックを行う。フッキングの基準は「面白かつたらやる。客が入らなければ共倒れだ。」

日本の、世界のミュージックシーンの底辺を支える「軒」として、そのミュージックシーンのミクロな世界で、楽器屋からギターの数が減つていくことを、是と見るか否と見るか。「京都の中でどの位置づけは何だつてええんけど、表現って、これらか

もつと多様化していくと思うね。だからライヴハウスって  
いうのも音楽だけじゃなくて芝居もしてるし、ダンスもして  
る」。自身の店を何と表現しているんだろうか。「別に(笑)。  
冠なんて何だっけと考えると、気にしてないし、気にし  
たくない。いま面白いと思うものをやって、それがバラバラの  
ジャンルでも、ちゃんと責任を持ってオペレートしていけば自  
然とまたひとつの雰囲気はできてくるだろうし。音楽のジャン  
ルだって、表現のジャンルすらこだわってないし、そこで敢え  
て『リースペース』みたいな言い方をしようとも思わない」。

質問の意図を瞬時に理解されたようである。これから先こうい  
う言葉で呼ばれたいという理想も「言葉としては、ないなあ。  
まあ自分の在り方と似てるなあとは思っていて、画も描きやあ  
大工もやりやあ音楽もやりやあ家庭もあやあ(笑)。色んな  
ものが集まって福西次郎ができていたみたいに、ライヴしに来  
るヤツがいて、観に来るヤツがいて、飲みに来るヤツがいて、  
アハンギルドっていう店がまとめてあるっついで」。

同店がオープン間もなく、ほぼ毎日ライヴが入っているとい  
う情報は入ってきていた。もちろん、スタッフだけでなく、  
出演者や利用者がそのままスライドしているだろうと予想はし  
ていたが、ほぼ毎日というのは立派である。'90年代の中頃から  
の数年は、ライヴハウスが最も受難の時代であったろうという  
話も、何度も触れてきた。「今もひどい時期はひどい時期なん  
違う? その中で一年でこれだけ毎日(ライヴ)が詰まってるっ  
てのは、上出来かな」。

### 東京のスタンスとも、大阪とも違う、 京都アンダーグラウンドの在り方。

ここに来て、「URBANGUILD」の由来を尋ねてみた。「ボク  
が銅駝高校に通ってたときにやろうと思ってたイベントの名  
前。バンドとライヴイベントとか、ダンスとか、そういう  
のを集めたイベントをやろうと思って、何回か企画したん  
やけど一回も実現しなかったイベントの名前」。

さらに「アバンギルド」「アーバン」「ギルド」に分解でき  
る。「前衛的な」「都市の」「職人の集まり」で、「ギ」って  
うのはドイツ語で「製作」とか「著作権」という意味があっ  
たり、オリジナルって意味もある。何層にも積み重なった名前  
だし、ずいぶん長い時を経て目の目を見たものである。「急に  
思い出したんやけど」とシロー氏は笑うのだが、元来こうい  
ったロジックのようなものはあまり考えない気質であろうか  
ら、気持ちはずっと入っているはずだ。半分は照れ隠しかもしれ  
ない。

有り体に言えば、シロー氏は多分、頑固な人である。もちろ  
ん理知的とか、芸術性や作家性が高いという意味も含めてだ。  
以前に比べると、同店をつくったことでずいぶんさげすまれた感  
じにさらされたと思ったが、「そんなことない」だそうである。

何にでも否定する人ではないので、これは正直なところだろう。  
「アバンギルドが福西次郎の分身である」とするならば、今  
までに通ってきた以外の景色はないだろうし、観たこともない  
ものはやはりよくない。今の20代が観ているものが、どれだけ  
20年前の20代が観ていたものとながっているか。

「アンババンタンも、これもそうやと思うねんけど、京都っ  
ていう地域の独特のアンダーグラウンドのシーンの在り方。東  
京のスタンスとも、大阪の感じとも違う在り方が、だいぶ形  
成されてるとは思うねんけど」。

「さらさら」というカフエ(というか現代の喫茶店)が、当時  
のプリミティブな左京区の純血を継承する店だとしたら、同店  
が懸念だという話にも得心がいく(それは、我々媒体が「さら  
さら」というひとくくりの言葉で片付けてしまう悪癖でもある  
のだが)。

### '70年代も、今の世代も知ってるし、 うまく察いできていきたいと望んでいる。

ともあれ、一年経って概ね順調。「メシも美味いよ(笑)。だ  
って外にメシ食いに行つて「不味い」ってどうよ? それはもう  
ライヴハウス以前の問題で、「美味くない」くらいならまだし  
も、金払ってなんで不味いモン食わなアカンねん? って思うか  
ら(笑)。それやったら持ち込みにした方がマシやん」。

サウンドシステムについても、もちろんまだまだ満足はして  
いないが、「響きすぎやとも思うけど、ハコそれぞれの独特  
の響きがあって良いと思う。レコーディングスタジオとか、  
こつこつコンサートホールをつくらせてくれるわけじゃないから、人  
によってはやりにくい人もいるかもしれんけど、そのくらいは  
我慢して(笑)。もちろん良いに越したことはないし、上は目  
指すけどね」である。

バンドや出演者を育てる、という気構えでもない。「一緒に  
育つていきたいなあ、というのはあるけどね。『remain』  
とか『ザツハルト』とか、あの辺の感じの音楽の居場所って  
のがなかったと思うねんけど、一緒に育つていったらいい  
気持ちはある。それ以前に、既に実力があるアーティストが  
常連としていて、今さら育つ育たない、という感覚でもないか  
もしれない。「それこそ(前号で既述の)『ウルトラビデ』のヒ  
デさんなんか70年代からやってるバンドやし、その辺の世代を  
知つてりや今の世代も知つてるし、うまく察いできていきたとい  
うのはもちろん望んでる。それも面白い表現でないと観ても仕  
方がないしな、やり方もジャンルもこだわらないうけど、やつぱ  
り、特に若い子にはええもんを観て欲しい。ジャパンはばっ  
かり集まってるハコで観たら「自分もやれる」って思えるか  
もしれないけど、オレはそういうのを観てもあまり意味がな  
いと思ってるから(笑)」。それもまた、ライヴハウスの性格の  
ひとつである。

オチなんてなくていい。  
続いているんだから。

上を目指そうとする人間に、果てはない、だが同店が上を目  
指すと、そこはどんな世界があるのだろうか。

「イベントとしての『O.O.O.』とか、村八分が出てた頃の西  
部(講堂)とか、その辺のニューアンスはオレの中にすこいある」。  
それこそ、同コーナーが追ってきた、その原点となる時代を知  
っているのである。

同店は京都では恐らく最新のライヴハウスで、店主は往年の京  
都ミュージックシーンを体験として知る最後の世代だろう。同  
コーナーに「登場したいだ、往時を生きてきた店と似ている」。  
取材を受け、それが世に出る「この危険さも知っているが、  
自らと同じように「発信者」や「つくり手」としてメディアを  
認めるから、そのリスクを飲み込んでしまう。「取材をして、感  
じたことを書いてくればいい。言ったことに嘘はない」。「70年代  
から続く店は、概ねそんなスタンスであった。我々メディアか  
らすれば、非常に理解のある存在である。だからこそ気が抜  
けない」。

「アンタビューとかって、難しいよね、キャッチフレーズみ  
たいな見出しをつけたって、会話の中の、喋ってないときの問  
とか、そのへんの空気感にその人の本質があるやろうから、そ  
れを無理やり言葉として、キャッチコピーを付けたって、スレ  
てくるのは仕方ないよね。オチ? オチなんてなくていいやん、  
現在進行形やし」。

そう、続いていると信じている。いや、続いで  
いると認識している。ミュージックシーンの「現場」にいるか  
らだ。それが京都のミュージックシーンであれ他都市であれ、  
シーンが磨き合っているとも思っていないし、心配もしていない。  
同店の言葉を借りれば「ええもん」を観てきた人がいて、後  
進にそれをつなげようとする人がいる。例えば表現が変わってい  
くことも、  
そういう人がいるから、ミュージックシーンは続くことが出  
来るのだ。



政治で  
わたしたしは  
変われない。

## UrBANGUILD

京都市中京区木屋町通三条下ル材木町181-2  
ニュー京都ビル3F  
075-212-1125  
18:30~翌2:00/不定休  
※ライブの時間は要問い合わせ  
<http://urbanguild.net/>

'07.3.17 単独来日公演が決定していたレッド・ホット・チリ・ペッパーズが、アンソニー・キーディス(Vo.)の急病により京セラドーム大阪・東京ドームの計3公演を延期。  
'07.4.13 「(日中間の)水を解かず旅」というフレーズを掲げ温泉宝中国首相は来日。同日の東京での日程を終え、翌14日に入浴。京都迎賓館で京都府政界首脳主催の歓迎会に出席するなどした。